

盛里地区

朝日馬場

曹洞宗

旭洞山本光寺



長生寺末

本尊由緒

延命地藏菩薩 木像
坐体像長30cm、膝張り27cm、面長13cm、脇侍は童子で本尊と共に行基作であると伝えられている。

合祀

薬師如来（東照寺より合祀す）、地藏菩薩、達磨大師、大権修利菩薩 観音坐像、韋駄天尊像等

開山は長生寺十五世一卓是教和尚で、伝昌寺の開山と同じである。

結構規模

境内地一反二〇歩

〔本堂〕 木造六〇坪、寄せ棟トタン葺

〔開山堂〕 木造トタン葺、二坪

〔庫裡〕 木造五五坪、トタン葺

〔鐘楼堂〕 四坪、その他十王堂、不動明王堂があったが今はない。

歴代住職

開山一卓是教―二世宗翁越禪―世桃仙良実―四世在庵宗鑑―五世寛林智道―六世円山喝音（伝昌寺二世）―七世泰山秀道―八世応山円量―九世暁山黙栄―十世黙宗大然―十一世逸乗不味（伝昌寺八世）―十二世岳峯南族―十三世賢定音桂―十四世禅眼照宗―十五世祥雲恕吉―十六世大諲暁道―十七世高岳祖道―十八世越岳祖流―十九世徳運保義（伝昌寺二十世）―二十世大通保彦（現任）

末社

井倉五五八番地の薬師堂、薬師如来坐像及び十二神将が祀られている。

興起縁由

天正二年香林存芳和尚により開創された。

開山履歴

古器什器宝物

- ・大般若圣 六〇〇巻
- ・十王尊像画 十三幅

・香炉一基 口径11.5cm、高さ8cm、土製 この香炉は、門前の「みささぎ」の中から掘り出されたもので、菊の紋章一と桐の紋章二刻印されている。

行事

涅槃会、仏誕会、開山忌、両祖忌、花まつり、達磨忌、施餓鬼会、秋彼岸会、成道会。

末寺

大慈山東照寺 朝日馬場



本光寺 本尊

境内地二畝、本尊聖観音、しかし今は廢寺となり本光寺に合祀されている。

朝日曾雌

曹洞宗

東光山伝昌寺



伝昌寺 本堂

長生寺末

本尊由緒

本尊は延命薬師如来。甲斐国志に「宝曆年間薬師の像を新彫して古本尊の小像並に十二神を体中に蔵む」と記されている。

興起縁由

「天文中以三有公禅定門一小庵創立し小隨庵と号した。」と甲斐国志にある

が、寺記によるとこれより先「享祿二年に長生寺八世節山宗忠和尚により開創された」とある。

開山履歴

天和の頃、長生寺十五世一卓是教和尚が此に退隠し、伝昌寺と改め開山となる。二世の円山喝音和尚の時法寺となった。

結構規模

境内四畝。〔本堂〕三八、五坪、〔庫裡〕三〇坪、十三堂七坪。

歴代住職

開山一卓是教―二世円山喝音―三世大道惠僊―四世宝山祖倫―五世天満素孝―六世禅室天房七世南州寛海―八世逸乘不味―九世逸山 道―十世高岳大英―十一世 山養全―十二世祥林天瑞―十三世隨法仙筭―十四世天産徹道―十五世大寛浄光―十六世雲曳魯僊―十七世一雲足丈―十八世雲岳碩瑞―十九世大学実仙―二十世徳運保義―廿一世 安琢立―廿二世雲溪大仙―廿三世戒応泰順……（現在無住）

行事

涅槃会、開山忌、両祖忌、施餓鬼会、

寺宝

板碑一基。

片緑泥岩。長さ91cm、巾21cm、厚さ19cm。

都留市文化財に指定さる。（昭和五十年度第十二号）



板 碑

与繩

臨濟宗

南向山天正寺

桂林寺末

境内地 二畝二十歩、

本尊 千手観世音菩薩

開基 茂菊理繁大姉（小山田契山のむすめ）

元和元年入院。

開山 大光覚雲禪師安山和尚。

縁由 契山のむすめは、北条氏の家臣某に嫁す約がありて、婚約者某はすでに小沼まで来りこの地において急病のためついに死す。この報に接した契山のむすめは、直に飾を落して尼となり、茂菊理繁大姉と号し一字を創立して余年を送られたとのことである。それが天正寺である。